

血液検査

全身を隅々まで巡っている血液を検査することで体の状態を知ることができます。血液の代表的な成分である赤血球、白血球、血小板の量や形を調べることにより、貧血や感染症、白血病などの病気の発見につながります。また、凝固検査では血液が固まる機能を調べています。

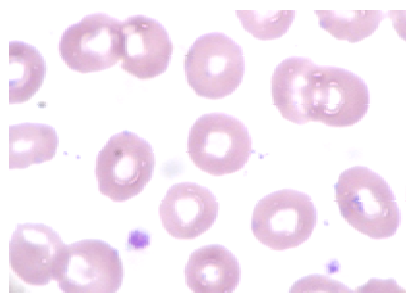


多項目自動血球分析装置

< 血液中の成分とそのはたらき >

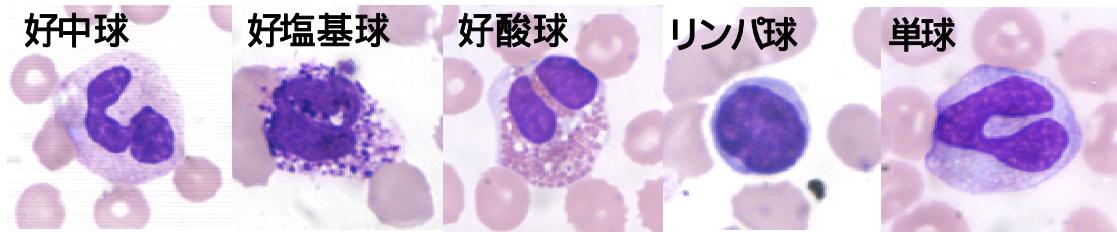
赤血球

全身に酸素を運び、生命維持にとっても重要なはたらきをしています。赤血球の寿命は 120 日程度で毎日、何百億個ともいわれる赤血球が作られ、同じように壊されています。



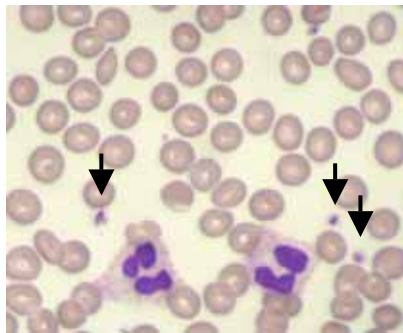
白血球

からだの中に細菌やウイルスなどの病原体が侵入したときに、それらを退治する役割をになっているのが白血球です。これら病原体を食べて殺すはたらきと、抗体というたんぱく質作ってからだを守るはたらきがあります。



血小板

血小板は血液に含まれる細胞成分の一種で、けがをした時などに出血している場所に集合してその傷口をふさぎ、出血を止める作用を持っています。



これらの血球の数を数えたり、形に異常がないかを調べています

輸血検査

血液中の赤血球や血小板、凝固因子などの機能や量が低下したときに、その成分を補充するために行われるのが輸血です。手術や事故で大量の出血が起こったときや、自分自身で十分に血液が作れなくなったときに行われます。輸血による副作用や合併症を防ぎ、安心して輸血を受けていただくために輸血検査を行います。